



3	(第76号)	(昭和37年12月5日) 広	報	Ŧī.	城	目	昭和 38 年 10 月 20 日(日曜日)
1000000 000000000000000000000000000000	・ 北海道地区の造林コンタール 北海道地区の造林コンタール いる村の人たちが植えたのでは は、ほくたちが植えたのでは なく、今、三十歳位になって ある。 秋田県で杉が一等になったのでは は、ほくたちが植えたのでは は、ほくたちの学校林が、東北	造林 市 ンクールで 等	談会=午後一時から四時まで=「「一」で、「一」を留から四時まで=「「」についての講演と、研究座長可写豊業構造改	日長コンサレタント協会事務司日長コンサレタント協会事務司に開いは産業祭の中心行事である「直まき栽培試作検討会」=日禄のは産業祭の中心行事であ		 わり一般に公開します。また、 シは午前中に出品物の密査を終 回した、出品物を受け付けて陳 曜)は、出品物を受け付けて陳 	
さずけられた。係のかたから さずけられた。係のかたから	北と北海道からひとりずつ選れと北海道からひとりずつ選れててなく、方々の人びたちだけでなく、方々の人びたちだけられた。ことに、東京なものでは王かんがついてた。たてには王かんがついてた。たてには王かんがついて	た。賞状はみんなで三枚、な ちのは、わが枝末の小子人は が、学校代表の子どもが参加 れたりに たったり、 「小子校代表の子どもが参加 したのは、わが枝だけであった を を したり、 植木へれの様子を吟 ちったり、 一本をきっての 協夫 たまっての 上であった したり、 「本をきって を 時 た た したり、 「本 た もったり に 本 た り た た た り た り た た た た た り に 本 た り に た り に た り に た り に た り に た り に 一本 た り に た り に を た り に た り に た り に た り に た り に あ っ た り に た り に た り に た り に た り に た り に た り に た り に の よ に あ っ た	六五点です。出品計画点 たい図表や標本、機械た	「写真による浩常」	りますので、育笛畑技術の向)ますので、育笛畑技術の向 どもあわせて行なら必要があ 一般ない。 市畑経	両点数は、六五○点です。 であります、それをねらいと て下希重いたします。出品計 して解査いたします。出品計	→ 豊産物 豊産物は量を多くとることも 、初つてすが、最近では品質の を弱します。第四日(四日 の最終日は午後四時半までです 出品計画総数 、一二二五点 豊産物は量を多くとることも してすが、最近では品質の そののですが、最近では品質の としてす。 、 のでは高質の に ののですが、 してす。 ののですが、 してす。 ののでは ののです。 のので していた。 のので していた。 ののの に のの のの のの のの のの のの のの のの
*************************************			こうこくとうことところとくころとくころとも美しそう		· · ·	Í	物産 ここに区分し、品質のおかず、加工品 の三つに区分し、品質の改築 学和学校を展示し、品質の改築 学校とを展示し、品質の改築 学校にを加えて行ないます。 計画出品点数は四四〇点です 計理出品点数は四四〇点です 計理出品点数は四四〇点です にし、たる、打 の三つに区分し、日常食を一 の三つに区分し、日常食を一
が終り、いよいよ造林コンク 別会の宣言とそれに続く挨拶	やがて大会が始められた。 た。 というけてもらい、席につい たのうち関係者も全部揃い そのうち関係者も全部揃い たのうためなかった。	いたな そう あい いれを 気持りひょう れい なん なん なん なん なん なん し て ん なん なん りがん かん ひょう し て たん りがん かく ちょう かん かく ひょう	のない子どもも楽しそう	○ 川端で枝外写生に余念、 です。	染め、秋茄子をもく主婦、そこ、緑側で種選びをする、	 ○ 中わらかい日ざしを浴 ○ 日一日と深まってゆく 秋の日より(和)は、一 秋の日より(和)は、一 	● 1 を あ ず ● 1 を あ む ● 1 を ま ひ ● 1 を ひ ● 1 を ま ひ ● 1 を ま ひ ● 1 を 1 を ひ ● 1 を
次は農林大臣、最後に国土緑	北海道地区緑化推進協議会、 北海道地区緑化推進協議会、 なと頭に浮かんできた。 など頭に浮かんできた。 はして受けて来いよ。」とおい たた先生のことばが なると頃に浮かんできた。	ールの表彰へと進んだ。この のたが、造林コンクールは今 気影を受けようである のたが、造林コンクールは今 先輩達、そして現在の都会穴での 気影を受けようである ですてられたあの間、先生方や 過去十年もの間、先生方や 過去十年もの間、先生方や 過去十年もの間、先生方や るたたるの料達の杉	知らず知らずのうちに、人間	. 6	●優秀校 五城目第一中学校 ◇三席 小柳清光(一日市中2) ◇二席 渡部守(五一中2)	2) > 二席 畠山実(面渦中2) - 「石町町700000000000000000000000000000000000	本学生に大家客をよいた家客をよいた家客をよいた家客をよいた家客をあるいました。 るの時期ののため、五城自常内部で 「一切」で、「一切」で、「一切」、 「一切」、 大川、 市場目、 常秋四 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一中二年 千一 一日市、井 一中二年 千一 一日市、井 一日 一、 一日 一、 一日 一、 一日 一、 一日 一、 一 世 二 一 一 二 世 二 一 一 二 一 世 二 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 二 二 一 二 一 二 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 二 一 一 二 二 一 一 二 一 一 一 二 二 一 一 二 二 一 一 二 一 二 二 一 二 一 一 二 二 一 二 一 一 二 一 一 二 二 一 二 一 二 一 一 二 二 一 二 二 一 二 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 二 二 一 二 二 一 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
ために、私達は環境の緑化としさと、豊さを一層高揚する	ヨイフィト ゆらうます。	の順序に受賞した。 るときは、あまりの緊張感にした。 るときは、あまりの緊張感にした。 でそれを受けた。 それでも一ちないほどだ る特別認識で開眼観音氏についての 報告、各提案事項についての 最後に縁化 活動 その後、各地区の緑化活動 その後、各地区の緑化活動 その後、各地区の緑化活動 そのたまれでものないほどだ って、参表する一方あ る時の読むした。 とれたしてい る特別記載で開い についての 見た、 とれてもの をした。 とれてもの を ないため によ る特別記載でした。		「 の二つを柱にして継続的にこれ の防犯③だく酒を絶対造らない の防犯④だく酒を絶対造らない	げました。この紀合は両部落全総議高真一さん々金野勇さん=を	組合=組合長金野宮蔵さん間ヶ	中 中 市 中 市 中 市 中 市 中 二 中 二 中 二 中 二 中 二 中 二 中 二 一 中 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
		おからも一生懸命に、県境と ないのだと痛感した。 終り た。 終り	動 その成果が期待されております	れ の食塩を入れてたくと、半に の食塩を入れてたくと、半に		その角砂糖ほどの一箱 塩は私達の自常生活 塩はないましんでの語って	に持ってて連鎖の た持ってこのすてて、結核着 作りってて二のすてて、結核着 なうちに、重荷にたえかねて でしかし に入りきました。 のの着のしまで収録の でしかし たに入りましたですが のつすて二のすてて、結核着 のの方のしまでしかし でしかし にに入りましたですが のの方のした。 のたあるる の のの方のした。 の の の たたえかれれて の の の の の の の の の たた た か 外 登 の に 、 山 の に た 、 面 行 に に た う ち に た た た か の た の の た の の て の 、 の 、 の た の た の た の た の ん れ て で の 、 の の て の の て の の て の 、 の の て の の て の の 、 の の の の し の の の の の の の の の の の の の
その日時と場所は所有者へ直接	く ため 大 ン 大 大 ン バ 日 動 車 の 大 ン 大 一 大 いま 変 引 十 五 日 から 町 で 取 り 取 り 求 ま 役 に て い た が 、 い ま 変 穴 て い た が 、 い ま 変 穴 に 、 い ま 変 穴 に 、 し ま 変 穴 に 、 し ま 変 穴 に 、 し ま 変 穴 に 、 し ま 変 穴 に 、 し ま 変 穴 て 、 た が 、 、 ま れ の の 立 正 で て い た が 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 て 、 た が 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 て 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 て 、 た が 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 、 ま れ の の 立 正 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	小必要であると思います。 そして、自ちの世帯の目しを で々防害増強にもとづくの消 者の生活はできるだけ他に経済 もの生活はできるだけ他に経済 もの生活はできるだけ他に経済 もの生活はできるだけ他に経済 もの生活はできるだけ他に経済 もの生活はできるだけ他に経済 たい、私ど ない、私ど たい、私ど たい、私ど たい、私ど	あなたをまもる	と ようになる。			カ 用 π π π π π π π π

		昭	和 3	8 4	F 1	0)	月 2	0´£	1 (1(日曜日)					広				及			H.			城				目		([#]	(昭和37 (第3種重		137年19月5日 睡郵便物認可。) (而)		(第		76号)			4	_	
	ている。暦応元年は足利尊氏がて銅冶工座を開いたことになっ	京西村から出羽国五十目浜に米	門が、弟子の藤原国広をつれて	岡県の雪屋の絵師金屋丘郷左エ	よるとこの暦応元年に、九州福	ん県内では最古である。文献に	香芯元年にさかのぼる。もちろ	かいってっ 二、「「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」	たいというとやざ	これと思う。	ているがこれから号を重なて順	外に大きくクローズアップされ	戸など「史跡の町」として県内	枢·吕母山与資詳·續富与七丰 最近五城目町(討潮戸陸・錦冶)	r L L L L L L L L L L L L L L L L L L L	野土	とり、八別派		、シリ銅治		対象者総	しいたいま	のでおし			空いたの結果		「日田川」「「ましたが	めており	対象に調	の青年を		手 キロの間に	農	村	·青		の	実	態		多い。進できる有	5	* では設築の	
5 5 5	物の集散するところは浜と呼んだが、昔は川筋でも舟付場で荷	どうしても湖岸の方を考えがち	ことも考えられる。兵といえばあたり(俗にクモンジ)という	の築地町の後ろ北島別邸のある	そういう点から五十目浜は、今	ノ目村と呼んだところである。	村といい、徳川初期まではイソ	しかし五城目町は昔は五十目	らである。	八万合 ①正成目と見ませって	170	五十目浜が、一体どこかという	ところで問題になるのは出羽国	十二年ごいら住た下、舌である		略上史研究家 分词问志 静	に決む名鐘		宿 座 (I)			芳務者が多く、平胆地は二種液と字質	森山二四一人八九人で	馬 川 三三人 九五人	川 四七六人			対象総数	地区毎にみますと	九〇八人が町外就業者でそのほ	が、対象者総数二六四五人中、	て各部落毎に確認したものです	町外就業者三六五人三六、四%	一七八人一七、	八人		一重乗義者「六一人」六二名	女子 1、00三人	^来 者五四三人三三、			九	農業専従者二一五人一三、二%	男子一、六四三人	
0	はいなめないと思う。	ともかくその銅冶座が、山内城	有力になってくる。円通寺は山	的にも五城目地内ということが	の門下にあったことになり地理	る。とすれば金屋一族は円通寺	去張に記録されていることであ	十月九日と山内「円亜寺一の咼」	国なの化工手引引が、尺中二手に主良去ユ門について来た萠原	しかしそれよりも重要なこと	かしくない。	らそこに浜があっても少しもお	ジの前を流れていた頃であるか	限ることはない。暦応といえば	ら磯だからといって何も湖岸に	た磯という地名もある。浜だか	へ行く途中、昔の舟付場であっと奉している。 また闇の湯酒券	と称している。まに傷り易温泉	でいる。よい例は仙北の白岩で		続きをしていない などがあげ	「新雄力とによる転日転入した	就職したが登録の手続きがない	ままである回他町村から本町へ	続きをしても、帰ってからその	ります。①よそへ行くときは手の場合、よく米粉銅になってお	たしかめてください。次のよう	すので、住民登録をこの際よく	生準備に支障をきたしておりま 中しノれされるなと、いろいろ	者が非常に多く、近くになって	いままでの例を見ますと未登録	役場の住民登録簿によりますが	ら十一月一日現在で、該当者の	人式に、もれなく参加できるよ	日「成人の日」に行なわれる成	中央公民舘では米年一月十五	成人名簿をつくる		十一月一日現在で	オオマオナヨー	経済と人手不足の現象がよく表	%を保っているが、揺れる農村	業専従者は三七五人で一四、二	すっが多くなっております。最外の定職から収入を得る者を指	
	古い聖徳太子もその哲質と一緒。	の鐘は当然大福寺のもとへかえ	見生りた目た高齢であるからと、	座の存在は、さらに脚光を浴び	の鐘があらわれれば五城目飼治	見せないだろうという。若しこ	今は堤防の下になり永遠に姿を	るれ	抱されれば、あるいまその 前が ことかなし、A 即年ア良認カ刊	またようという細胞また問いた	らずこうこう。またこと目、こと言われているが、それを引き	に綱をおろすと鐘の音が聞える	梵鐘が沈んでいるという。そこ	植に川口があったと言われ、現		とも八郎潟に押し流されたとい	天正九年の大洪水に吊鐘堂もろ	又愛一向堂の大滝をつくったが一	ヨー門は花童 りんこ … いろして 郎 いろして の 五郎 一 二 の 五 の 五 の 五 の 五 の 五 の 五 の 五 の 一 の 二 の 五 の 二 の 五 の 五 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 つ 五 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		Contraction of the second second			「「ない」													へお願いします。	は中央公民舘(電話四一四番)	(成人式のことでのお問い合せ	互目までり間こにもこちゃです	- に、 の名自・ しきる生年月日は「昭和十	なお、こんどの成人式に該当	央公民館にご連絡ください。	戊人式 こ 8 町 こ、時主は れます。①転出した方で本	
	地は今のべたように五城目のク介したいと思うが銅冶座の発祥	治座については次号		約治座をつくっている。おそら	し、正保年間には久保に新たに	銅冶工座はその後ますます発展	房を拡張したものと思う。その	なく以前の歳原つまり余屋の工	る。それま断にこ開いたもので言語語」に創業工匠も開催してい	四月各一二同台二名二月、二、五十日本(王規目)クモンジ(いしす 、<	て、藤原国広の子孫と姻を結び	左エ門という鋳物師がやって来	うヨゴド向ご宮たムロら飲むみ	さて銅冶座は永禄二年(今か	えされたとつたえられている。	う太子像のおつげで大福寺こかうか。 大袖寺にかえりたいとい	うば、大国寺ニュとりこ、こ、おれ、殿本の構訳にあったとい	別し		はげむ農家」	「写真、取り入れに	ではないだろうか。	とも、後進性の原因	らった。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	そうに思います。	たんはの利用ができ	短い秋のあいだにも	もう少し早くしたら	れも早くなったが、	して、イネの取り入	・ ・ 三早栽培が普及	やってきます。	、 あっというまに冬が	 東北の秋は短い 		五小・五一中・神明社前をそ	▼十一月三日(交化の日) 芽	頭いします。	すので、町民多数のご参加をお	τ.	中央公民館では、十一月の諸	行事	十 一 月 の	
N. V.Y.	× × (広報係)	字です。	中央会社高くおそしくどされず	した。ご期待ください。なお、	ら執筆していただくことにしま	て郷土史研究家の分銅志静氏か	くために、今月号から順を追っ	を広くみなさんに知っていただ	に対が多く、その歴史的な皆い	りに丁こよ、うら、に見からく	へお知らせ下さい。	現状を保持して早速中央公民館	出土品等があった場合は、そのと思われた、今後もそのようカ	あり、クモンジに関連するもの	れはまさしく鋳物のカナクソで	ことで、一部をいただいたがそ	らカナクソが多量に出たという	らら。ヒド田丁の民日家の後いジの発掘が今後の大きな講座で	モンジと思われるので、クモン		いては後日体協卓球部で「実	われる予定ですが、詳細につ	て、第六回全町卓球大会が行	- 十一月中司第一中学変こおいることになっています	段階に分け、熱戦が展開され	学校・一般の団体・個人の四	「希望の塔」をめざして小中	ことこ日若気こし、 猿山頂と	しずまってから忍び込む泥棒が	くすを目あての空巣ねらいや、寝	~~て、つい戸締りが不用心にな	りまた毎日の仕事で疲れてしま	田畑に出かけ、家をるすにした	(この設務期には二家族外もなが	くしい日々を送っていることと思	く 秋のとり入れで毎日大変お忙	~犯罪を一掃	族 : く る			、 一下 れっ ぜ	2		-1	
	また、ヒモを解いたままのも	大ご迷惑をかけていますのでキ	公民館での行事のある場合も	利用できます。	っと合数が入り、多くの方々が	す。先着者から順々に置けばも	なため整理に手を焼いておりま	つくりましたが、置き方が乱雑	なきし、の更宜と考え、貿易とてよります。中央公司命ではス	するのか多く、管理上別を組め	オートバイなどを聞きっぱなし	通勤、通学の方々で自転車や	転車の放置	いりし	頃の高い自	のご協力をお履いします。	たいと考えています。皆さん	い」を十一月下旬頃に開催し	る第二回「新町建設町民の集	「町年にあき県衆母社物調会と	おります。	会が開催されることになって	全県の同志による文化財講習	・本荘・男鹿・南秋)並びに	申央也王(火日・可辺・由明 館に おいて 県老 委 主 僧 に よ そ	★十一月十九·二十日中央公民	っております。	施要項一を発表することにな	安全交通	規	風します	(深夜でも)気軽にご連絡下さ	一人きめはやめにしていつでも	は心苦しいとか、忙しいとかの	い事で警察に迷惑をかけること		らず現場をふみ荒したり、かた	けた場合は、被害大小にかかわ	です。また不幸にして被害を受	ねらっておりますので、物品は	自転車類・米その他の穀物類を	最近の泥棒はおもに、現金・	被害を受けぬよう充分に注意い	この時期をねらっております。	
2		について」	「罪をなくすため」「少年の非行	「中学生と非庁」「青少年の犯」	う」「単子ションに、しょう」	し一吉履ちゃん誘かい事件に思	とおりです。(入賞のもののみ	なお、各弁論のテーマは次の	ださるよう期待します。	妻会及び青年会などでご利用く	ますので、PTAや婦人会、若	全部録音テーノこおさめてあり生の一切犯弁論大会」の弁論は	育舘で行なわれた、湖東部中学	十月二日五城目第一中学校体	録音ラーフ	r°.	中学生の防犯弁論		錠してください。	めに、自転車などへは必らず施	さ、。とこ、発催と方上するに	なお、置場がいっぱいの場合	くご協力願います。	通勤、通学のみなさん、よろし	課のようになっていますから、	るおそれもあります。それやこ	ものなどもありますが、盗まれ	温要項一を発表することにな のや、カサを車にかけたままの	して正しい運転をしましよう。	守り、交通量に応じた安全なそう	も定められたクきまりクをよく	せん。また、車を運転する方々、	く覚え、クあなたも、私もみん	ません。お互いに交通法規をよ	歩き方もむかしのままではいけんですから、引く会までます!	ですいら、ほく気等の等ら方、、すが、自動車の数もよえる一方、	外危険を感じないでいるようで	まりにも身近かにあるため、案	私どもの日常生活に道路はあい	く知り事故のない明るい社会を	ての人々が、交通のルールをよく	歩く人も、運転する人もすべい	重安全運動一ド子なつれます。		